

第39回 向日市上下水道事業懇談会 議事録

日時：令和5年8月18日（金） 午後2時から午後4時まで
場所：上植野浄水場 大会議室（2階）
出席者：（委員）太田委員他6名（3名欠席）
（事務局）上下水道部副部長他6名

1 副部長あいさつ

2 議事

議事1 【令和5年度 向日市上下水道事業会計当初予算及び主要事業について】

事務局説明

- ・令和5年度 向日市水道事業会計当初予算及び主要事業について 事務局説明

○質疑

委員 当初予算の説明を今年度の半分を過ぎようとしている時期に、懇談会に諮るのはどうかと考える。

事務局 前回の懇談会は1月開催であり、まだ予算が固まっていなかったためこの時期になった。

会長 当初予算の説明については、年度の始まる前か或いは、始まってすぐ位に説明するべきであり、懇談会からの意見などによる修正を考えると、適切な時期に開催することは必要である。

委員 収益的収支の収入ですが、給水収益以外の収入はなにがあるのか。

事務局 給水収益以外の主な収入については、長期前受金戻入益があり、ある資産の耐用年数の数年にわたり補助金を分割して計上している。

委員 資本的収支ですが、建設改良積立金を補填するとある。利益剰余金として、3億円残っているが、利益があっても積み立てられていないのはどういうことか。

事務局 建設改良積立金の考え方は、将来、発生する設備の更新費用となる管路の布設、将来的な投資であり、毎年1億4,000万円ほど、計上している。

委員 一時的に利益が出たので積み立てて、必要なときに使うことがあると思うが、向日市には3億円ほどある。今後も、利益が出た時に使うでよいか。

事務局 利益が出たときは、積み立てて、翌年に使っているのが実情である。

会長 利益が出ているときはいいが、今後減少していくときにどうしていくのか。現在策定中のビジョンや経営戦略での見通しはどうか。

事務局 経営戦略で、今後10年先を見通して計画しており、人口減少の影響があるが、まちづくり計画も向日市はしているので、それほどは、人口は落ち込まないのではないかと考える。

会長 収入と支出はほぼ均衡しているが、若干収入が黒字になる部分があるので、それは将来の改修や資産の一部として毎年、積み立てている。

維持管理とか更新の費用については、これまで積み立ててきた資産の方から、それを使って工事を行っているということで、将来的には、その部分をどう確保していくのかという理解でよいのか。

事務局

はい。

委員

収益的収支と資本的収支は何か。

事務局

公営企業会計では複式簿記となっており、経営活動に関わる収益的収支と、固定資産の獲得に係る資本的収支に分かれている。

委員

他市の審議会でも議論になる問題で、3条予算や4条予算などと説明されることもあり端的に説明しづらく非常に難しいと考える。

建設に投資したとか、借金の返済額など個別の数字を見る程度は確認できるが、その収支までいくと更に難しくなる。

収益的収支については、民間事業者の損益計算書で赤字や黒字などを確認すればよいと考える。

会長

水道事業は若干、黒字になっており、将来のメンテナンスに積み立てている。十分にはないので、将来どうしていくのか。

委員

耐震化のためにしているのか。

事務局

耐震化事業となっているが老朽管布設替え工事であり、老朽管の更新時に耐震管に変えている。

議事1 【令和5年度 向日市上下水道事業会計当初予算及び主要事業について】

事務局説明

・令和5年度 向日市下水道事業会計当初予算及び主要事業について 事務局説明

委員

予算書の件数とは流入口の件数か。

事務局

下水道の排水件数（家庭、事業所など）である。

会長

水道の給水件数よりも600件ほど少ないが、600件は下水の契約をしていないのか。

委員

畑に水道を引いているところがあり下水が発生しない。

委員

最近を経験したことのない浸水が全国であるが、何か対策はしているのか。

事務局

防災担当課でハザードマップを作成しており、下水道課で雨水流入量をみることのできるカメラを設置している。

委員

今回の台風ではどうだったか。

事務局

強めの雨程度の流入量であり被害は幸いなかった。

委員 1点目は、今回の台風で流入量がどの程度などの資料を次回でも示すべきと考える。
また2点目は、カメラ調査については、130か所のうち、4割ほど職員が実施するメリットとデメリットはなにか。

会長 1点目の台風時の流入量など、市民への説明として非常に良い話だと考える。
2点目はどうか。

事務局 市で調査用のカメラを保有しており、業者の調査に同行することで、操作方法や判断などの技術を習得しているところである。今後全て自前か民間委託かはまだそこまでの方向性は確定していない。

会長 緊急の時に、職員ができるのはよいことである。
全部、業者に委託してしまうと、緊急の時に欲しい情報が直ぐに取得できなくなることから、一部だけでも職員が見れる力、技能を持つことはよいことと考える。

委員 全て安い民間委託の時期があったが、今は高くなっている。必ずしも民間委託で効率的になるとは限らない。
昔と違い民間も人手がないため、料金が高くなっている。
民間の知識を得て、バランスよく実施していくのがよいと考える。

委員 カメラの装置が重要になる。
京都府などでカメラの開発をして、装置の機能で大きく変わるのではないか。
何かの制度を使って、京都府などにカメラの研究開発の申請もした方がよいと考える。
また、他には令和5年度で130か所、総計で6,000か所あり、全て調査すると50年かかるが増やしていく計画はあるのか。

事務局 マンホールの管口の調査については、平成27年度までで一巡している。
一通り調査が終わり平成28年度から2巡目の調査となっている。

委員 上下水道事業の現状は、施設の更新や経営の安定化の問題が山積しているが、市議会とかは、どの程度理解しているのか。

事務局 議員の先生方にも、今回お示ししたような資料は提示している。
料金の話が多くなる傾向だが、市としては、基本的な説明をしており、一定の理解はしていただいている。

議事2 【向日市上下水道事業経営戦略（案）について】

事務局説明

・向日市上下水道事業経営戦略（案）について 事務局説明

委員 投資・財政計画の5章、6章が出てきていない。
水道で、1人当たりの企業債5万円という目標を決めるのはよいが、実際の債務が30億円弱、下水道は企業債が110億円もある。
下水では基準外の繰入を行っている。
公益性の高い下水道で計画が重要と考える。

事務局 順序があり、小委員会で議論したあと、懇談会に諮ることから、次の小委員会で出す。

- 会長 人口増加時代から人口減少時代になり、維持管理をどうしていくか、多くの自治体の問題となっている。
その問題を見据えた投資・財政計画を、小委員会で議論して進めていくべきと考える。
- 委員 水道事業で企業債を65%から70%に抑制することで、企業債への依存を見直し、一番恩恵を受ける現世代にも負担して貰うわけであり理解できるが、一人当たりの企業債残高が5万円という目標は、京都府の他市町村と比べて妥当なのか、この資料では判断できないと考える。
また、下水道事業では、基準外繰入金を問題と考えており、判断基準として京都府下の市町村の現状を資料として添付するべきと考える。
- 委員 現在、経営戦略の策定を進めているが、京都府が受水単価を下げた時に、向日市も水道料金を下げた。
懇談会では、全て値下げに転嫁するのではなく、一部は今後の更新費用に充てるなどの意見書を出したが反映されなかったのは問題ではないか。
- 会長 このビジョンを議論していく上で、他市の状況などについては、重要な論点となるため必要な資料は持っておかなければいけないと考える。
他市の状況を調べているのか。
- 事務局 一人当たりの企業債残高については、京都府内の北部では、6～7万円程度であり、本市では5万円と設定している。
また、現金が約15億円程度あり順調に経営できていることから、企業債残高と水道料金の設定とのバランスを見ながら運営していく。
- 委員 議会の答弁などで、これからのビジョンが一つのベースとなると思うが、現状を把握するため水道料金も含めてビジョンの中で議論していくべき。
議会などで水道料金の議論していく上で、理論的なベースとなるものがあるべきと考える。
- 委員 懇談会では、上下水道事業をこれからも安定的に運営できるように、経営戦略を議論していくべきと考える。
- 委員 雨水対策は、下水道使用料ではなく、税金で負担しているのか。
- 委員 雨水対策は、税金で負担している。
- 委員 呑龍の流入施設などは、汚水対策か雨水対策かどちらなのか。
- 事務局 雨水対策である。
- 委員 汚水事業は下水道使用料、雨水事業は税金と基本的情報を説明するために、分けて表示した方が、資金がどれだけかかっているか解りやすいと考える。
- 事務局 以前は、汚水事業と雨水事業は分けていたが、令和2年より公営企業会計になったことから、現在の方式になっている。
- 会長 汚水事業と雨水事業は分けて表示した方が議論しやすいと考える。

議事3 【その他について】

事務局説明

- ・水道料金の減免について 事務局説明

会長 水道料金の基本料金2か月の減免なのか。

委員 市民へのPRの方法はなにか。

事務局 水道料金の基本料金2か月の減免であり、市民へのPRについては、市の広報誌とホームページで行っている。

委員 懇談会での議論の結論が軽視されていると感じている。
なかなか難しいところもあるが、我々の意見が尊重される環境になれば良いのではと考える。

会長 懇談会のあり方について、考えていくべきと考える。